

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム あかしあ		
所在地	山口県今津町1丁目10-9		
電話番号	0827-30-0802	事業所番号	3570801005
法人名	有限会社 サンメディカル		

訪問調査日	平成 21 年 2 月 25 日	評価確定日	平成 21 年 5 月 8 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	15 人	常勤 9 人 非常勤 6 人 (常勤換算 9.8 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	2 ~	3 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	
食費	朝食	300 円	昼食	480 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額 19,500円 (30日) 円			
	内訳 光熱水費 日額650円			

(4) 利用者の概要 (2月25日現在)

利用者数	18 名	男性 2 名	女性 16 名	
	要介護 1	4	要介護 4	3
	要介護 2	5	要介護 5	
	要介護 3	6	要支援 2	
年齢	平均 82.5 歳	最低 74 歳	最高 98 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 医療法人まりふ会 森脇神経内科 歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

ホームは交通の便の良い市内中心部に設立され、家族の訪問も多く、毎日面会に来られる家族もあります。家族会も結成され、年に2回「家族会」を開催し、一緒に食事をしたり、ゲームを楽しんだりして、家族の交流が行なわれています。1階にデイサービスが開設されており、デイサービスの利用中にホームとなじみの関係が作られ、安心して入居された利用者も居られます。

(特徴的な取組等)

毎月2回土曜日に専門の指導者による音楽療法を取り入れ、利用者の脳活性やリハビリと共に利用者の大きな楽しみ事になっています。医療連携体制をとっており、24時間の協力体制と共に、提携医療機関の看護師が2週間に1回訪問し、健康観察や医療相談等の健康管理を行ない、医療連携記録簿に課題やホームの職員が取り組むべき対応が記録されています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果を真摯に受け止められ、改善に向けて努力されています。地域活動への参加や交流、地域連携については、地域向けホームだよりの作成と地域内への回覧、同事業所一階のデイサービスの休みの日を利用して行なう、地域の高齢者を対象とした「生き生きサロン」にも取り組まれる予定です。

(今回の自己評価の取組状況)

各職員が部分的に自己評価をしたものを取りまとめ、各ユニット全体でカンファレンスを行いながら、評価項目や評価についての共通理解を行なっておられます。最終的には施設主任、管理者、ユニットリーダーで協議を重ね、まとめておられます。

(運営推進会議の取組状況)

連合自治会長、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、家族、施設長、管理者等のメンバーで、定例的に実施されています。家族からの意見や提言も活発に行なわれ、自治会長や民生委員の協力により、地域の理解を深める為の地域向けホーム便りの発行し回覧されています。地域の高齢者の為の「いきいきサロン」も計画されています。

(家族との連携状況)

家族会が結成され、昼食会や懇談会等家族との交流行事が開催され、面会時のコミュニケーションにも配慮されています。家族向けホーム便りを毎月作成し、ホームでの暮らしぶりを伝えており、手書きで個別の近況報告も綴られています。

(地域との連携状況)

地域向けホームだより「あかしあだより」を作成し、地域内へ回覧してグルームホームへの理解を深めており、事業所の一階では、地域の高齢者の為の「いきいきサロン」の開設も予定しています。幼稚園児の来訪による利用者とのふれあいや、歌・フラダンス・日本舞踊等ボランティアの人たちとの交流も行われています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	重要事項説明書や地域向けホーム便りに地域密着型サービスの理念として、地域との交流、地域と一体となったケアの提供などが盛り込まれている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	職員全員が参加する会議や勉強会において、理念を確認しあい、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の事業所として位置づけられるよう、地域向けホーム便りの回覧やディサービスを利用した生き生きサロンの実施に取り組んでいる。幼稚園児が来訪して利用者とのふれあいや、歌、日舞、フラダンスなどのボランティアとの交流もある。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員共に評価を行う意義を理解しており、自己評価項目や評価について全職員で共通理解を図っている。外部評価の気づきや結果を活かしながら、具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	連合自治会長や自治会長、民生委員、家族、地域包括支援センター職員等で構成され、地域向けホーム便りの発行や回覧、回覧範囲の拡大等が話し合われ、地域の高齢者の為のいきいきサロン等も計画されている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外にも、担当課や地域包括支援センターへ出向き、サービスの確認や報告、懸案事項の相談など行い、市と一緒にサービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族向けホームだより「あかしあ通信」に一人ひとりの写真を載せ暮らしぶりや行事の様子を報告して、利用者の様子やコメントも手書きにより報告をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情の受付体制や苦情処理の手続きは明確に定められているが、第三者委員は専任されていない。面会や行事の際は気軽に声をかけ、意見を聞かせてもらっており、寄せられた意見や提言についてはミーティング等で話し合い、サービスに反映させている。	・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	ホーム内の行事や利用者の状況の変化に応じ、柔軟に対応が出来るよう、職員と相談しながら勤務の調整を行なっている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職を防ぐ為の待遇改善や新人職員の対応に配慮しており、ここ六ヶ月は異動もなく安定的に推移している。新人職員にはしばらくは管理者等と一緒に関わり、利用者が安心して暮らせるように配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	協力病院や医師会が行なう研修会に参加し、必要に応じ接遇などの内部研修も行なっているが、外部研修参加や認知症に係る専門研修の機会は少ない。	・外部研修の機会の確保 ・認知症や認知症ケアに係る専門研修の確保
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、管理者同士の交流会や意見交換会、勉強会、相互訪問を行ない、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	見学や利用前の家庭訪問による面談を通して、グループホームの雰囲気や自分の居室等を知ってもらい、職員との顔なじみの関係を作る等、安心して利用できるよう配慮している。	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	配膳下膳、干し物や洗濯物たたみ等、日々を共に暮らしながら、暮らしの中の知恵やしきたりを利用者から学んだり、信頼関係や支えあう関係を築いている。	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	利用者が自分の思いや希望を発言できるよう、一人ひとりの言葉に耳を傾け、何でも言える関係作りに配慮している。	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	家族の希望や本人の意向も尊重しながら、毎月、ケア会議やミーティングを行い、利用者本位の介護計画を作成している。	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月毎にアセスメント、介護計画の更新を行なうとともに、状況の変化に応じ随時ケアカンファレンスを行ないながら、現状に即した新たな計画を作成している。	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	家族や本人の状況に応じた受診の付き添いや援助、買物や行楽等の外出支援などの移送サービスを柔軟に行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関の協力や支援体制が確保されており、協力医療機関の看護師を担当者として月2回の健康観察や健康管理、受診調整と受診時の対応、緊急時の支援が行なわれている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	連携医療機関の24時間体制の連携のもとに、重症化した場合や看取りについての指針を掲げており、家族、職員共に方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	日常業務を通して、プライバシーについての理解を深めており、不適切な言葉かけや対応が行なわれないよう、職員同士で啓発し合っている。記録等個人情報の取り扱いも適切であった。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりの趣味や特技、経歴等にも配慮し、利用者の希望やペースに合わせた支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食共にホーム内で調理し、利用者と職員と一緒に調理、準備、配膳、片付けなどを行っており、食事は調理した物を一緒に食べながら、和やかな雰囲気であった。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	毎日入浴する事が出来、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味や経歴等も尊重し、縫い物や読書、歌唱等を行うと共に音楽療法も取り入れ、生活の場においては食事の支度、洗濯物たたみ等様々な場を提供し、役割や張り合い、楽しみ事となるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	公園での散歩や買物、季節に応じた行楽、系列施設での地域行事への参加等、利用者の個々の希望に応じ戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	スピーチロックも含め、身体拘束について職員は正しく理解しており、抑制や拘束のないケアにとりくんでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニットは2階及び3階部分にあるが、ユニットを一步出るとすぐにエレベーターや階段に繋がり、一階玄関は交通量の多い車道に面している。家族の希望もあり、安全面から施錠していることが多い。	・施錠の是非について、再度検証 ・鍵をかけないケアの工夫
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各種マニュアルを整備すると共に、協力医療機関の看護師の指導を受けたり、勉強会等を行ない事故防止に努めている。月2回の看護師の健康観察時には「医療連携」と称する記録を整備し、利用者の認知・身体状況の把握にも努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルは作成されており、随時、救急救命研修やAEDの実地訓練をしているが、定期的な実施には至っていない。	・定期的な研修や訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力や指導を受けながら年2回の避難訓練や消防訓練を行っており、運営推進会議や近隣地域にも協力が得られるよう働きかけをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	職員は利用者が使用している薬を理解しており、服用の都度手渡しで服薬支援し、服薬の確認も行なっている。必要な情報は医師や看護師に報告しており、薬の知識はインターネットで入手するなどの努力もしている。	・連携医療機関薬剤師との連携
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	各居室の洗面所で、毎食後、声かけや支援により口腔内の清潔保持を行なっている。個々の状態に応じて歯ブラシ、義歯の保管、清掃、消毒の支援も行なっている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量は記録され、必要に応じ水分摂取量も記録されている。献立は利用者の希望も聞きながら職員で作成し、各ユニット間で相談をしあっているが、栄養バランスや摂取カロリー等の検証は行っていない。	・連携医療機関栄養士等との連携、相談助言体制の構築
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルが作成されており、手指消毒や手洗い、インフルエンザの予防接種、日に2回の事業所内各所の噴霧消毒等を行い感染防止に取り組んでいる。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の生活空間に不快な音や光はなく、季節の花が飾られ、壁面や居間食堂の飾りつけも家庭的で明るい雰囲気である。食堂と厨房は対面し、炊事の様子等生活感も感じられる。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベット、筆筒、椅子、電気スタンド、カーテンはホームの備え付けで、希望に応じ寝具の貸与もしているが、テーブルやテレビ、洋服掛け等を搬入し、その人らしい壁面の飾りつけをする等、居心地よく安心して過ごせるよう工夫されている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あかしあ2階
所在地	山口県岩国市今津町1丁目10-9
電話番号	0827 (30) 0802
開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (月 日現在)

ユニットの名称	グループホーム 2		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	2	要介護 4
	要介護 2	2	要介護 5
	要介護 3	3	要支援 2
年齢構成	平均 83.2 歳	最低 74 歳	最高 96 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	各ユニットごとに自己評価票を基に各職員に対し面談を行い面談結果を集計。また、ユニットごとの集団での面談(カンファレンス)をおこなう。全ての集計結果を基に管理者、ユニットリーダー、施設主任とでより客観性をもった評価に近づくように協議をおこなう。
評価確定日	平成 20 年 2 月 27 日

【サービスの特徴】

(考え方) ご本人の生活スタイルを考慮し、ご自宅で生活されていた時と同じような感覚で安らぎと安心感のもてる環境を作り努めています。また、グループホーム内での社会性は勿論のこと、地域での社会性も維持していただけるように努めています。(接し方) 基本的な考え方として、ご入居者様に対して敬いの心を持った形での接し方に心掛けるとともに、特別な接し方はせず、互いに「あかしあ」の住人としての良好な関係作りを努めています。職員は日々、ケア(認知症介護)の質の向上に努めるべく職員間でケアの見直しを行っています。また、入居者様に対しての「思い込みや押し付け」の無いケアを実施できるように意見交換・研修等、積極的に行っています。(体制) 日中の活動の充実が図れるとともに夜間の対応が円滑に行えるような人員配置(体制)の構築に日々努めています。また、入居者様の健康管理面におきましては、職員同士での観察力の強化と共通認識の徹底を心掛けるとともに、関係医療機関との医療連携の強化と看護師さんからの指導に基づいたケアの徹底に努めています。また、日常的な健康管理や緊急時の対応が円滑に実施できるように体制の整備をおこなっており常に双方の意識向上に繋がるよう努めています。(交流) ご家族等の訪問(面会)も多く、ご家族と職員の交流も充実しています。また、入居者様、ご家族、職員との参加のもと「家族会」を設け、より一層の交流を深めて行けるように努めています。また、地域での催し事等への参加も積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後、地域交流の場を増やし介護情報等の提供スペースとしても機能していきたいと考えています。(特徴) 市内中心部という立地条件のため、日常生活上の利便性を活かした生活空間の場を提供するとともに訪問者にとっても訪れやすい環境です。特別な行事等は多くありませんが、日常生活を通しての生活機能訓練や四季を感じられ穏やかに暮らせる空間作りを目指しています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		あかしあ便りを発行している
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		マンパワーの活用(レク活動をしてくださる方を検討中である)地域生き生きサロンとして当事業所のダイルームを開放予定

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組んでいる。前回の外部評価を基に今まで出来ていなかったところや改善が必要と思われるところなど随時、取り組んでいくように努めている	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ご家族、地域の方や包括支援センターの職員さん等を招き意見要望等を聞き検討した後、サービスに活かせる様に努めている	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者の方に疑問点や改善すべきところなど細かく指導を頂きサービスの質向上と運営の質向上に対して常に取り組んでいる	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するように支援している。	現在、権利擁護事業利用者さんが入居中の為その都度、利用の必要性や内容については、ある程度、理解し必要性があれば活用できるように支援している。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に本人を主体とし、利用者に対し対応面(行動等)、会話の面(言葉遣い等)共に配慮している	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に出来る限り契約内容の詳細を説明し、疑問に思われる事や不安に思われる事に対して理解いただけるように説明をおこなっている	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や苦情窓口を設け、上がって来たそれぞれの内容に対し実直に受け止め対応し、職員一同共有している	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議、月1回発行の「あかしあ通信」にて近況等を報告している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18 (8)	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20 (9)	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		
21 (10)	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24 (12)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族との連携を図り、家事との会話の中で見つけられる生活暦や生活習慣等を知ると共に介護者は、それらを把握しより良い介護サービスが提供できるように心掛けている		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族が自由に訪問でき、居心地良く過ごせるような環境作りを心掛けている		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人に馴染みのある方や関係者、また本人が希望されれば訪れてみたい場所等、これまでの生活区域が損なわれないように支援できるよう心掛けている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わり合いが持てるように毎日、皆でレクリエーションを行ったり皆で参加できるような行事や場面を作っている		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現状終了者なし		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思い等を傾聴し、常にコミュニケーションを図るように心掛け何でも言える関係作りに努めている		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活暦、生活習慣等を把握し、ご本人主体のサービス提供ができるように努めている		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりのケア記録、申し送りノート、口頭での申し送りを徹底し、出勤時には必ず目を通し分からない事や疑問に思う事についてはその都度、解消するように徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、ケース会議を開催し、それぞれが聴集した利用者の意見や要望、また職員の意見を出し合い出来るだけ利用者の意向が盛り込まれた形で作成している	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的(6ヶ月に1回)にモニタリングを行い利用者の変化等が生じた場合には本人、家族等と話し合いの機会を持ち現状に即した計画を作成している	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録、申し送りノート、口頭での申し送り等を利用し、情報共有し見直しや気づき等があった際にはその都度、話し合いの機会を持つようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	主治医や医療連携機関、地域の中での各連携機関と連絡調整をおこない、利用者や家族とも良く相談しながら支援するように心掛けている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ホーム全体でボランティア企画を考え、不定期ではあるが催しを開催している。また防災訓練等、消防の協力にておこなっている	今後、できるだけ柔軟な形で地域社会との結び付きを持っていきたいと考えている
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	外出時に同行などして頂き協力を得ている	介護ボランティアさんや研修、介護相談などの受け入れを行い地域貢献に心がけていきたいと考えている
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現状ではない	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		看護師による指導、介護方法を学んでいる。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者の自尊心を傷つけないように職員の行動、言葉かけに配慮し、記録物等の個人情報の取り扱いにも注意している。また、マニュアルを作成し全職員に対し研修等をおこない周知徹底を心掛けている</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく入居者が自分の思いやペースを保ちながら自由に暮らせるように努力している</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>食事作りや下膳、洗濯干し等、個別や共同の作業をして頂きできる力を活かしてもらっている</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者の個別の趣味や職歴、特技等を活かせるように配慮し、その人らしい日々が送れるように支援している。職員はその人のペースに合わせて一緒に時間を共有するように心掛けている</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>美容師がホームへ来られるので、殆どの利用者が利用しているが地域の理美容院を希望する人に対しては対応していくように心掛けている</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>利用者の状態に合わせての調理方法や盛り付けなどに配慮し、利用者と職員と一緒に調理、準備、食事、片付けをしている</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>入居時にある程度の嗜好を確認し食事に反映させている</p>	<p>利用者一人ひとりができるだけ自由に楽しめるような嗜好環境を今以上に整備していきたいと考えている</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>利用者個々の排泄パターンを把握し、適切な声掛けや誘導でトイレでの排泄がおこなえるように支援している。また、職員間でオムツの弊害について再認識するように心掛けている。排泄介助についてのマニュアルを作成し職員間で共有している</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68 (26)	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		ユニットから一步出るとすぐにエレベーターや階段に繋がっている為、目が届かない時に安全を考慮して施錠することもあるが、基本的には施錠することは無く入居者の自由な暮らしを支えている。反面、家族からの要望として「出入口に施錠をしてもらった方が安心するし、これがあるから入居を強く希望した面もあります」と施錠の希望があるのも事実です。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		利用者に対しての行動を勤務職員全員で把握し連携を図り安全に配慮している。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		個々人の状況・状態に応じてできるだけ利用者保管・管理を心掛けているが、現状においては誤飲等の危険性が高いため職員預かりとしている。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		各種マニュアルを整備するとともに、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり勉強会等を行い事故防止等に努めている。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		各種マニュアルを整備するとともに、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり勉強会等を行い事故防止等に努めている。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		事故報告書、ヒヤリハット報告などは、どんなに小さな事でも記入し、事故防止のための改善策を講じ職員相互で共有している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	目が届かない時は、安全を考慮して施錠をする事もあるが基本的には日中は施錠することなく利用者の自由な暮らしを支えている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は窓が広く明るい。ソファやテレビ、観葉植物や利用者作成の季節に応じた貼り絵カレンダーなど掲示することにより季節感等を感じてもらっている。音の大きさ、明るさ、などにも注意をはらうよう努めている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者一人ひとりの居室を設けており、ゆったり過ごしていただいたり、食堂に設置してあるソファにて利用者同士で談笑され楽しい時間を過ごされている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド、タンス、椅子、電気スタンドはホーム備え付けであるが、テーブルやテレビ、洋服掛けを持ち込まれ好みに応じた部屋作り、本人が作成した作品を飾る等、居心地良く過ごせるように工夫している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、窓を開け細まめに換気を行うと共に各居室に設置してある換気扇を利用し臭いや空気のだよみが無い様に努めている。また、心地良い室温の設定に注意している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	浴槽、便座、流し台等は、必要に応じ自助具を取り付け、要所所に滑り止めや手すりの設置等、利用者が使いやすい様に工夫している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	常に職員は利用者の行動を見守り、混乱や失敗を防ぐよう、さり気なく声掛けや誘導をおこなっていけるように努めている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上にプランターを設置し季節に応じた花や野菜を植えたり、洗濯物を職員と一緒に干したりと、気分転換の場として屋上を利用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム あかしあ3階
所在地	山口県岩国市今津町1丁目10-9
電話番号	0827 (30) 0802
開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (1 月 19 日現在)

ユニットの名称	グループホーム 3		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの 利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	2	要介護 4
	要介護 2	4	要介護 5
	要介護 3	2	要支援 2
年齢構成	平均 82.8 歳	最低 74 歳	最高 90 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	各ユニットごとに自己評価票を基に各職員に対し面談を行い面談結果を集計。また、ユニットごとの集団での面談(カンファレンス)をおこなう。全ての集計結果を基に管理者、ユニットリーダー、施設主任とでより客観性を持った評価に近づくように協議をおこなう。
評価確定日	平成 年 月 日

【サービスの特徴】

(考え方) ご本人の生活スタイルを考慮し、ご自宅で生活されていた時と同じような感覚で安らぎと安心感のもてる環境を作り努めています。また、グループホーム内での社会性は勿論のこと、地域での社会性も維持していただけるように努めています。(接し方) 基本的な考え方として、ご入居者様に対して敬いの心を持った形での接し方に心掛けるとともに、特別な接し方はせず、互いに「あかしあ」の住人としての良好な関係作りを努めています。職員は日々、ケア(認知症介護)の質の向上に努めるべく職員間でケアの見直しを行っています。また、入居者様に対しての「思い込みや押し付け」の無いケアを実施できるように意見交換・研修等、積極的に行っています。(体制) 日中の活動の充実が図れるとともに夜間の対応が円滑に行えるような人員配置(体制)の構築に日々努めています。また、入居者様の健康管理面におきましては、職員同士での観察力の強化と共通認識の徹底を心掛けるとともに、関係医療機関との医療連携の強化と看護師さんからの指導に基づいたケアの徹底に努めています。また、日常的な健康管理や緊急時の対応が円滑に実施できるように体制の整備をおこなっており常に双方の意識向上に繋がるよう努めています。(交流) ご家族等の訪問(面会)も多く、ご家族と職員の交流も充実しています。また、入居者様、ご家族、職員との参加のもと「家族会」を設け、より一層の交流を深めて行けるように努めています。また、地域での催し事等への参加も積極的に取り組んでいきたいと考えています。今後、地域交流の場を増やし介護情報等の提供スペースとしても機能していきたいと考えています。(特徴) 市内中心部という立地条件のため、日常生活上の利便性を活かした生活空間の場を提供するとともに訪問者にとっても訪れやすい環境です。特別な行事等は多くありませんが、日常生活を通しての生活機能訓練や四季を感じられ穏やかに暮らせる空間作りを目指しています。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		「ゆとりと安らぎ・尊厳のある生活」を、私達は提供いたしません。という理念の基、その人らしさを主体にした日常生活を過ごしていただけるよう努めています。
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		ご本人の生活スタイルや思いをできるだけ聞き入れられるように努力している
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		各ユニットの事務室の目に付く場所へ理念を掲示している。
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		常に利用者の立場に立つように心がけ、各々の職員がサービスの統一、意識統一が図れるように努力している
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		運営推進会議等において当事業所の方向性や理念を理解してもらえるように努力している
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		隣近所の方と出合った際には必ず挨拶をし、時として立ち話等をするが、町並みが商店街のためか気軽に立ち寄れるような環境とまではいかない
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		現状においては出来ていない
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		現状においては出来ていない

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組んでいる。前回の外部評価を基に今まで出来ていなかったところや改善が必要と思われるところなど随時、取り組んでいくように努めている	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	ご家族、地域の方や包括支援センターの職員さん等を招き意見要望等を聞き検討した後、サービスに活かせる様に努めている	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当者の方に疑問点や改善すべきところなど細かく指導を頂きサービスの質向上と運営の質向上に対して常に取り組んでいる	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するように支援している。	現在、権利擁護事業利用者さんが入居中の為その都度、利用の必要性や内容については、ある程度、理解し必要性があれば活用できるように支援している。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	常に本人を主体とし、利用者に対し対応面(行動等)、会話の面(言葉遣い等)共に配慮している	虐待防止委員会を立ち上げ、今以上に積極的に防止に取り組みたい
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に出来る限り契約内容の詳細を説明し、疑問に思われる事や不安に思われる事に対して理解いただけるように説明をおこなっている	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や苦情窓口を設け、上がって来たそれぞれの内容に対し実直に受け止め対応し、職員一同共有している	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議、月1回発行の「あかしあ通信」にて近況等を報告している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	常時、閲覧できるように各ユニット入り口に設置		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	現状において不満、意見、苦情等がよせられていないが、今後どのような事が起こっても対応できるようにある程度マニュアル化しており、手続きの流れを明確にしている。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に1回のミーティングの際に意見や提案を出し合ってもらい常に報告を受けている。また、日常的に現場にて直接職員より意見、要望等を聴集し実行できる件に関しては検討後、実行に移すように努めている		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常に利用者に対し十分な対応ができるように職員調整をおこなっている。また、職員にも過度な負担が掛からない様に職員確保にも努めている		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	できるだけ職員の異動等には配慮している。また、離職等に関してもできるだけ最小限に抑えられるように職員一人一人の待遇面(ソフト面)等を充実できるように常に配慮していけるように努めている		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修会等をおこない職員育成に努めている。また、マニュアルを作成し実際の現場において基本的な事などについても教育している		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	常に考慮し多面的な対応が出来る様に努めている		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他事業所の見学(意見交換の場の設定)や他事業所管理者を招き意見交換をおこなう機会を設定		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族との連携を図り、家事との会話の中で見つけられる生活暦や生活習慣等を知ると共に介護者は、それらを把握しより良い介護サービスが提供できるように心掛けている		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族が自由に訪問でき、居心地良く過ごせるような環境作りを心掛けている		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人に馴染みのある方や関係者、また本人が希望されれば訪れてみたい場所等、これまでの生活区域が損なわれないように支援できるよう心掛けている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が関わり合いが持てるように毎日、皆でレクリエーションを行ったり皆で参加できるような行事や場面を作っている		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	利用者の医療依存度が高くなる等でグループホームでの継続的生活が困難になられた方とその家族に対して、退去後の不安が回避できるように必ず他サービスへの移行とその後の経過等、何かあれば相談できる体制を築けるよう心掛けている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思い等を傾聴し、常にコミュニケーションを図るように心掛け何でも言える関係作りに努めている		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活暦、生活習慣等を把握し、ご本人主体のサービス提供ができるように努めている		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者一人ひとりのケア記録、申し送りノート、口頭での申し送りを徹底し、出勤時には必ず目を通し分からない事や疑問に思う事についてはその都度、解消するように徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンス、ケース会議を開催し、それぞれが聴集した利用者の意見や要望、また職員の意見を出し合い出来るだけ利用者の意向が盛り込まれた形で作成している	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的(6ヶ月に1回)にモニタリングを行い利用者の変化等が生じた場合には本人、家族等と話し合いの機会を持ち現状に即した計画を作成している	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア記録、申し送りノート、口頭での申し送り等を利用し、情報共有し見直しや気づき等があった際にはその都度、話し合いの機会を持つようにしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	主治医や医療連携機関、地域の中での各連携機関と連絡調整をおこない、利用者や家族とも良く相談しながら支援するように心掛けている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ホーム全体でボランティア企画を考え、不定期ではあるが催しを開催している。また防災訓練等、消防の協力にておこなっている	今後、できるだけ柔軟な形で地域社会との結び付きを持っていきたいと考えている
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	不定期ではあるが家族会等の見学などの受け入れをおこなっている	介護ボランティアさんや研修、介護相談などの受け入れを行い地域貢献に心がけていきたいと考えている
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現状ではない	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	プライバシーの徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の自尊心を傷つけないように職員の行動、言葉かけに配慮し、記録物等の個人情報の取り扱いにも注意している。また、マニュアルを作成し全職員に対し研修等をおこない周知徹底を心掛けている	
57	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく入居者が自分の思いやペースを保ちながら自由に暮らせるように努力している	
58	“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	食事作りや下膳、洗濯干し等、個別や共同の作業をして頂きできる力を活かしてもらっている	
59 (22)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の個別の趣味や職歴、特技等を活かせるように配慮し、その人らしい日々が送れるように支援している。職員はその人のペースに合わせて一緒に時間を共有するように心掛けている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容師がホームへ来られるので、殆どの利用者が利用しているが地域の理美容院を希望する人に対しては対応していくように心掛けている	
61 (23)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の状態に合わせての調理方法や盛り付けなどに配慮し、利用者と職員と一緒に調理、準備、食事、片付けをしている	
62	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	入居時にある程度の嗜好を確認し食事に反映させている	利用者一人ひとりができるだけ自由に楽しめるような嗜好環境を今以上に整備していきたいと考えている
63	気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者個々の排泄パターンを把握し、適切な買え掛けや誘導でトイレでの排泄がおこなえるように支援している。また、職員間でオムツの弊害について再認識するように心掛けている。排泄介助についてのマニュアルを作成し職員間で共有している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年間行事の中に家族会を取り入れ、家族への参加を呼びかけて気楽に参加し皆さんが交流できるような環境作りをしている。	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については、正しく理解しており拘束はない。	
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ユニットから一步出るとすぐにエレベーターや階段に繋がっている為、目が届かない時に安全を考慮して施錠することもあるが、基本的には施錠することは無く入居者の自由な暮らしを支えている。反面、家族からの要望として「出入口に施錠をしてもらった方が安心するし、これがあるから入居を強く希望した面もあります」と施錠の希望があるのも事実です。	
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者に対しての行動を勤務職員全員で把握し連携を図り安全に配慮している。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々人の状況・状態に応じてできるだけ利用者保管・管理を心掛けているが、現状においては誤飲等の危険性が高いため職員預かりとしている。	
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	各種マニュアルを整備するとともに、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり勉強会等を行い事故防止等に努めている。	
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	各種マニュアルを整備するとともに、関係法人の医療機関の看護師等の指導を受けたり勉強会等を行い事故防止等に努めている。	
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリハット報告などは、どんなに小さな事でも記入し、事故防止のための改善策を講じ職員相互で共有している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
88 (35) 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染予防のマニュアルを作成しその都度、予防対策を講じている。また、インフルエンザにおいては家族に了承をいただき予防接種を行っている。		
89 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食中毒等のマニュアルを基に全職員に周知徹底をし、衛生管理に最善の注意を払っている。また、食材に関しては鮮度を重視すると共に温度管理・賞味期限においても最善の注意を払っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	目が届かない時は、安全を考慮して施錠をする事もあるが基本的には日中は施錠することなく利用者の自由な暮らしを支えている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は窓が広く明るい。ソファーやテレビ、観葉植物や利用者作成の季節に応じた貼り絵カレンダーなど掲示することにより季節感等を感じてもらっている。音の大きさ、明るさ、などにも注意をはらうよう努めている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者一人ひとりの居室を設けており、ゆったり過ごしていただいたり、食堂に設置してあるソファーにて利用者同士で談笑され楽しい時間を過ごされている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベッド、タンス、椅子、電気スタンドはホーム備え付けであるが、テーブルやテレビ、洋服掛けを持ち込まれ好みに応じた部屋作り、本人が作成した作品を飾る等、居心地良く過ごせるように工夫している。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎朝、窓を開け細まめに換気を行うと共に各居室に設置してある換気扇を利用し臭いや空気よどみが無い様に努めている。また、心地良い室温の設定に注意している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	浴槽、便座、流し台等は、必要に応じ自助具を取り付け、要所要所に滑り止めや手すりの設置等、利用者が使いやすい様に工夫している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	常に職員は利用者の行動を見守り、混乱や失敗を防ぐよう、さり気なく声掛けや誘導をおこなっていけるように努めている。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	屋上にプランターを設置し季節に応じた花や野菜を植えたり、洗濯物を職員と一緒に干したりと、気分転換の場として屋上を利用している。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない